



F H J
Future Homemakers of Japan

第48号

兵庫県高等学校
家庭クラブ連盟

発行兵庫県立西脇高等学校



創造と奉仕の精神を未来へ

兵庫県高等学校家庭クラブ連盟成人会長
県立西脇高等学校長 内藤 敦志

日ごとに春の訪れを感じる季節となりました。会員の皆様におかれましては、本連盟の活動に積極的

に取り組んでいただき、心から感謝の意を表します。現在、全国で約14万人、1400校を超える仲間が活動

する全国高等学校家庭クラブ連盟(FHJ)の一員として、皆さんが「創造・勤

勞・愛情・奉仕」の精神を胸に歩んだ軌跡は、この一年間の大きな輝きとなりました。

今年度の活動を振り返りますと、7月31日・8月1日の両日、三重県四日市市にて開催された「第73回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会」に、成人会長として、本校の顧問・生徒とともに参加いたしました。全国から集まった志高いクラブ員の皆さんの熱気、そして創意工夫に満ちた研究発表に触れ、家庭クラブ活動が持つ無限の

可能性を再確認し、深い感銘を受けた次第です。

また、8月19日には西脇市の「オリナス」を会場に、兵庫県高等学校家庭クラブ連盟総会・研究発表大会を開催いたしました。県内各地から集まった代表

校による、地域課題の解決に向けた粘り強い実践報告は、どれも兵庫の未来を明るく照らす素晴らしいものでした。また、本校の活動においては、地場産業

である「播州織」を用いたものづくりや地域交流を通じ、伝統を次世代へつなぐ役割を担ってまいりました。地域の産業と生活を繋ぎ、感謝の心を持って社会に

貢献する姿勢は、まさに家庭クラブが目指す「より良い生活の創造」そのものであると確信しています。

家庭クラブ連盟の活動の意義は、日々の生活を丁寧にし、そしてクリエイティブに見つめ直すことにあり

ます。他者のために何ができるかを考え、自ら動くこと。この経験こそが、変化

の激しい社会を生き抜くための揺るぎない「人間力」の土台となります。

本連盟はこれからも進化を続けていきます。皆さんが今年度時いた種は、次年度以降、さらに大きな花を咲かせることでしょうか。後

輩の皆さんは、先輩方が築き上げた伝統を大切にしながらも、時代に即した新しい形を自由に描き出してください。

最後になりますが、生徒の皆さんの活動を温かく支えてくださいました指導顧問の先生方、並びにご家庭・地域の皆様に深く感謝申し上げます。兵庫県高等学校家庭クラブ連盟のさらなる発展と、会員の皆

様の健やかな成長と飛躍を心より祈念いたしました。年度末のご挨拶といたします。

家庭科は「よりよい社会」を築く力の育成をめざす教科です。

「よりよい社会」とはどのような社会でしょうか。そして、その実現のために私たちは何ができるのでしょうか。そのような問いに答えるヒントが、学校家庭クラブの活動には詰まっています。

現代は、国際情勢の不安定化やグローバル化、デジタル技術の飛躍的な発展など、変化の激しい時代です。社会のしくみや働き方をはじめ、人々の生活全体が大きく変わろうとしています。

このように、未来を予測するのが難しい時代を生きていくためには、自分で課題を見つけて考え、周囲の人と協力して解決していく力がとても大切です。また、さまざまな考え方や立場の異なる人と円滑にコミュニケーションをとる力も必要になります。

ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動は、家庭や地域、社会と関連付けて課題を設定し、解決に向けて取り組む課題解決型の学習です。家庭科の学習で習得した知識と技能をより確実なものにし、問題を解決する力や、実際に行動できる力がどんどん伸びていきます。自分の家庭や地域、社会の中で問題を見つけ、それを自分のこととして改善していく力を



よりよい社会をめざして —学校家庭クラブ活動から広がる未来—

兵庫県教育委員会事務局 高校教育課
指導主事 岡本 由佳子

身につけることは、将来きつと皆さんの大きな強みになるはずです。

さて、8月に開催された兵庫県高等学校家庭クラブ連盟総会、指導者養成講座並びに研究発表大会では、四校が研究発表を行いました。どの発表も、家庭科で学習した内容をもとに、家庭や地域・社会から見つけた課題を解決するために、プロセスを大切にしながら研究を進めていきました。

自信を持って人前で話し、初めて会う人とコミュニケーションをとるといふ活動に参加することは、これから社会で活躍する上でとても貴重な経験になります。今後も積極的に参加し、能力を高めていってください。

学校家庭クラブ活動は、生徒の皆さんが主役です。活動のアイデアは、日常の中にたくさんあります。自分から進んでアイデアを提案し、楽しく充実した活動をしてもらいたいと思います。

生徒の皆さんの柔軟な発想と元気いっぱい行動力によって、多くの人を笑顔にし、家庭クラブの活動を広げていってください。これからもさまざまな人々との縁を大切にしながら、「よりよい社会」の実現をめざして、家庭科で学習したことをもとに実践していくことを期待しています。

関わる機会の少ない家庭クラブ員同士が交流することができました。指導者養成講座においては播州織の端切れを使ったりカードケースやレジんキーホルダー、糸糸を使ったタッセルの制作に取り組みました。実習を通してものづくりの楽しさや工夫することの大切さを学ぶとともに、家庭科の学びを深める貴重な経験となりました。また、同じグループになったクラブ員同士で会話を深めながら

ら活動することができ、家庭クラブでのつながりを実感することができました。これらの行事を開催するにあたり準備や運営を進める中で多くの先生方や発表校、役員の皆さんに協力していただいたことで無事に大会を終えることができました。

最後になりましたが、一年間連盟活動にご理解とご協力いただき、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



学校家庭クラブを通して 学んだこと

兵庫県高等学校家庭クラブ連盟 生徒会長
県立西脇高等学校 岡田 菜由

令和7年度兵庫県高等学校家庭クラブ連盟の生徒会長を務めさせていただきました。

本年度は多くの方々の協力のもと「令和7年度兵庫県高等学校家庭クラブ総会」第65回兵庫県高等学校家庭クラブ研究発表大会「第64回兵庫県高等学校家庭クラブ指導者養成講座」を開催することができ、感謝しています。8月の家庭クラブ連盟行事では147名の方にご参加いただき、県内各地区の普段

研究計画賞

学校家庭クラブ活動

特産物の活用で地域貢献を

県立相生産業高等学校

■題目設定の理由

本校学校家庭クラブは、地域の特産品を用いたお菓子や軽食作りを中心に活動しています。本校生の食生活の課題解決をはかること、地域に新たな食の提案をして地域貢献を行いたいと考え、この題目を設定しました。

■実践活動

1 実態調査と研究 (1)「食に関するアンケート」の実施

・食生活実態調査
・地域の特産品・郷土料理に対する意識調査

(2) 食生活の向上に向けた啓発活動
①文化祭での食育展示ブースの開設

②「かあちゃんず」代表創立記念講話
③食中毒についての講習会

2 実践活動
(1) 地域の食材や特産品を活用したメニューの開発

①地域の特産品を用いた「おむすび」レシピの考案
②地域の特産品を用いた「クッキー」レシピの考案
(2) 地域社会の現状調査と子ども食堂との交流。

■まとめと今後の課題
今回の研究によって、私たちは3つの課題と向き合います。

した。1つ目は高校生の食生活の現状と課題点に目を向けること、2つ目は地域の特産品や本校で開発した商品を用いたレシピを提案していくこと、3つ目は地域の活性化に向けて高校生が出来ることについて考えていくことです。

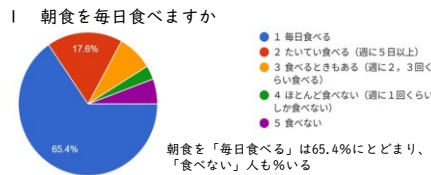
食生活課題を改善すべく、主食である米に着目し、地元の特産品と組み合わせたレシピを考案できました。本校で開発した商品を使用し、地産地消のコンセプトが評価され、姫路市長賞を受賞することが出来ました。

現在は地域の特産品のメロンや夕顔の実を用いたお菓子作りに取り組んでいます。新しい相生の味を提案していくことが次の目標です。

最後に地域の子ども食堂のお手伝いを通して、私たちができる地域貢献について考える機会を得ることができました。子どもたちの支援をされている方々の思いを聞き、それを受け継いで繋いでいく重要性を感じました。今後

も地域の方々と協同して、相生市の活性化に向けた取り組みに積極的に参加していきたいと考えています。

(1) 「食に関するアンケート」【食生活実態調査】結果



特産物の活用で地域貢献を



県立相生産業高等学校 学校家庭クラブ

(1) 地域の食材や特産品を活用したメニューの開発

① 地域の特産品を用いた「おむすび」レシピの考案



「あいおいタやけ食堂」



課題設定賞

ホームプロジェクト発表

家庭の防災の見直しとその改善

県立兵庫高等学校 2年 山下 紗弥さん

■題目設定の理由

普段から災害に対する備えの不足が気になっていたこと、昨年の夏に南海トラフ巨大地震臨時情報の発表があったことから、防災への意識を高めようと思い、「家庭の防災の見直しとその改善」に取り組んだ。

■実践活動

(1) 現状把握
自宅や非常用持ち出し袋、家族との連絡方法について、現状を調査した。

自宅については、築年数などから構造上問題はないと考えられた。廊下・トイレ・窓なども、非常時を想定して点検することができた。台所には棚が多く、地震で棚が転倒すれば一番危険な場所であるということや、自宅に準備している非常用持ち出し袋には内容品が少なく、食料品が入っていないことが問題点であることがわかった。

■まとめと今後の課題
今回の研究を通して、現状を把握する中で新しい発見や気づきがあった。また、非常用持ち出し袋の不足品も補うことができ、家族との避難場所の確認や連絡方法の更新をする機会が持てた。

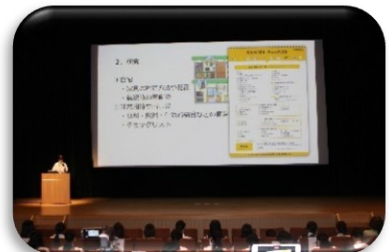
今後は非常用持ち出し袋の充実や、追加した食料品の消費と備蓄、防災食の実践などが課題である。

防災は一度備えて終わりではなく、継続していくことの重要性を改めて実感した。

参考文献から、家具の固定方法や配置、就寝時の準備物、食料・飲料・生活必需品などの備蓄、災害用伝言ダイヤルや伝言板といった、現状からの問題点を改善する新しい情報を得ることができた。

(3) 実践

自宅については、台所の棚や自分の部屋の家具を突っ張り棒やベルトで固定したり、就寝時の枕元に避難時の準備物を置くようにした。



令和7年度兵庫県高等学校家庭クラブ連盟総会
第65回兵庫県高等学校家庭クラブ研究発表大会
第64回兵庫県高等学校家庭クラブ指導者養成講座

今年度の大会は8/19に西脇市オリナスにて無事終わることができました。研究発表では明石南高校、宝塚東高校、相生産業高校が家庭クラブ活動発表を兵庫高校の山下さんがホームプロジェクト発表をされました。その後、佐用高校から7月に東京で実施された全国高等学校家庭クラブ連盟指導者養成講座の参加報告がありました。昼休みには大阪関西万博で西脇高校が行ったファッションショーの動画上映や家庭に関する学科の生徒同士での交流会が実施され午後からは「SDGs播州織の布地を使った小物づくり」で製作体験をして楽しみました。



第66回全国高等学校家庭クラブ

指導者養成講座に参加して

県立佐用高等学校 春井 弘菜

本年度の指導者養成講座は7月24日・25日の2日間、国立オリンピック記念青少年センターでの開催となりました。兵庫県からは生徒2名、顧問教諭1名が代表として参加しました。

開講式の後、「広げよう！つなごう！学校家庭クラブ活動」というテーマで、茨城県立竜ヶ崎第二高等学校指導教諭の石塚幸子先生よりクラブ員講義がありました。その中でも、グループ活動において大切な「聞く・聴く・訊く」の3つの『きく』について学び、今後のグループ活動で生かしていきたいと考えました。

続いての分科会では、他の都道府県の参加者とグループになり、「チャレンジしよう未来へつなげる学校家庭クラブ活動」という協議題のもと、ポランテア活動や学校での取り組みを共有し、今後も残していきたい活動や新しい活動をするならどんな活動で、何が必要なのかなどを話し合いました。活動していく中でグループのメンバーとの仲を深めることができ、楽しく過ごせました。

最後に、体験講座「こぎん刺し」で、日本の伝統的な刺し子技法のこぎん刺しを学びました。コツをつか

むと楽しんで体験することができました。二日目は、「自立のための授業“ホームエコノミクス”」という講演を聞き、フィッランドの学生の自立への意識の高さに感銘を受けました。今回の講座では、全国各地の家庭クラブ員と交流し、それぞれの都道府県や地域にあった活動をたくさん知ることができました。このよ



うな体験ができたことに感謝し、今回学んだことを忘れずに今後の活動に生かし、これからの家庭クラブ活動がより良いものになるよう頑張っていきたいと思えます。

第73回全国高等学校家庭クラブ

研究発表大会に参加して

県立西脇高等学校 中根 理華子

第73回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会が令和7年7月31日(木)、8月1日(金)の2日間、三重県の四日市市文化会館にて開催されました。

大会は三重県立白子高等学校普通科文化教養(吹奏楽)コースの皆さんの華やかで美しい演奏から始まり

「ホームプロジェクトの部」では7校の発表がありました。どの発表も食物アレルギーや防災、家計などの家庭の課題を多様な視点から研究されており、家族や地域にと

ることでできました。また、三重県の伝統工芸の伊勢型紙を使用したステンする体験のブースも設置されていた。普段触れることの少ない伝統工芸品を身近に感じることができ、貴重な経験をさせていただきました。

「学校家庭クラブの部」では7校の発表がありました。織物や染技術など薄れてゆく地域の伝統を守り、自分たちだけでなく次の世代に

ついでに試行錯誤して取り組まれていたことが印象的でした。「学校家庭クラブの部」では7校の発表がありました。織物や染技術など薄れてゆく地域の伝統を守り、自分たちだけでなく次の世代に

生徒交流会では、班に分かれて三重県に関するクロスワードパズルをしました。三重県についての知識を深めるとともに、ランダムに振り分けられた全国の家庭クラブ員とコミュニケーションをと



令和7年度兵庫県高等学校家庭クラブ連盟1年間のあゆみ

Table with 3 columns: 月日 (Date), 行事 (Activities), 場所 (Locations). It lists various events from May to August, including regional conferences, national seminars, and a general assembly.

令和7年度兵庫県高等学校家庭クラブ連盟 役員

Table with 4 columns: 役職 (Position), 名 (Name), 前 (Previous), 所 属 (Affiliation). It lists the members of the executive committee and staff, including adult and student representatives from various schools.

編集後記

今年度は、県立西脇高等学校が事務局を担当させていただきました。不慣れな点も多くありましたが、多くの協力のもと活動を行うことができ、感謝しております。

8月の県連の大会には、多用の中、のべ147名の参加をいただきました。指導者養成講座ではグループを変えながらクラブ員同士でテーマに沿った会話をし、播州織のモノづくりを通じた交流を持つことができ、クラブ員の輪を広めることができたように思います。最後になりましたが、顧問・理事の先生方をはじめ各校の家庭科の先生方のご協力、お力添えに感謝申し上げます。1年間、お世話になりました。今後ともよろしくお願いいたします。

